

## Mimicry アリに擬態するアリグモ

アリグモはハエトリグモ科に属するクモ類で、姿形や動作までがアリによく似ていて、よほど注意しないとアリと見間違ってしまうほど。

ハエトリグモの仲間は、獲物を捕らえるための巣はつくらず、地上や植物体の上を歩き回りながら獲物を探す狩猟行動を行う徘徊生のクモである。糸はジャンプするときなどに命綱として用い、卵塊をくるんだり、越冬する際に体を包むのに用いられる。ハエトリグモ類の最大の特徴は、8個ある眼のうち前方の2個が巨大で抜群の視力を持ち、ハエなどの獲物を捕らえるのに威力を発揮することである。

アリグモの仲間は、日本列島に100種類以上生息しており(須黒,2017.ハエトリグモハンドブック. 文一総合出版)、新潟県の里山では、「アリグモ」がもっとも普通に見られる。

分類群が全く異なる動物たちが、ギ酸をもつアリや毒針を持つハチに姿を似せる「擬態」は、クモ類以外でも見られる現象で、鳥類や肉食動物に襲われることが少なくなるなどの生存上有利になる効果があると考えられている。



2本の第1脚をアリの触角のように振りながら歩く姿には、人間でもついダマされてしまう